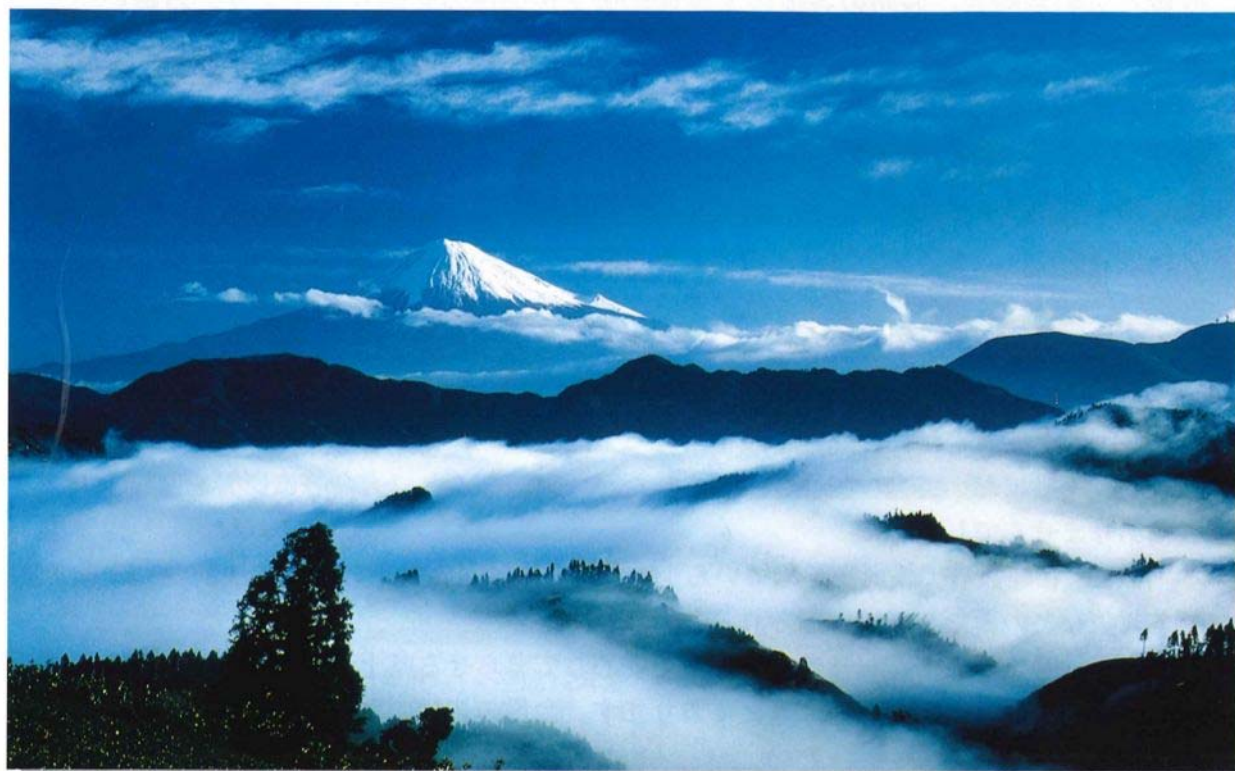


砂防だより

新春号

NO.
128
2000.1.1



あけましておめでとうございます

| | |
|-------------------------------|----|
| 新年の挨拶 | 2 |
| 平成11年度補正予算と平成12年度国の予算内示 | 3 |
| 富士山・狩野川直轄砂防事業 | 4 |
| 市町村長等砂防事業県外視察 | 6 |
| 市町村等砂防担当職員研修会 | 7 |
| 全国治水砂防促進大会 | |
| 東海地区協会支部長・砂防課長合同会議 | 8 |
| わがまちの斜面整備構想委員会 | |
| わがまちの砂防 | 9 |
| 砂防ボランティア講習会 | |
| 火山砂防フォーラム in フィリピン | 10 |
| 砂防室の移転 | 12 |
| 2000年を迎えて | |



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 齊藤 滋与史

全国治水砂防協会静岡県支部

年頭のご挨拶

全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 斉藤 滋与史

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、良き初春をお迎えのことと存じます。

お陰をもちまして、西暦2000年という節目の年に、当全国治水砂防協会静岡県支部も60周年と記念の年を迎えることとなりました。

これもひとえに砂防関係の皆様方の御支援御協力の賜と感謝いたしております。

今後とも引き続き、砂防の各種事業推進に御支援御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新年のご挨拶

河川砂防総室
砂防統括監 大池 悦公

会員の皆様には、よい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、4月1日に組織のフラット化に伴い、砂防課から河川砂防総室砂防室として新たなスタートをするとともに、11月15日には県庁の西館から本館2館に引越しするなどあわただしい1年となり、御来室の皆様方にも大変ご迷惑をおかけしました。

平成11年の土砂災害は、広島県や岐阜県など全国で1,492件発生して、死者が34名にのぼっております。本県においても、12件発生しましたが、幸いなことに人命等に影響を及ぼす甚大な被害はありませんでした。

本年は、現在建設省で検討を進めている「総合的な土砂災害対策のための法制度」に基づき、ソフト対策などの新たな展開が図られると思われまます。

土砂災害は時を待ってくれません。安全で安心して暮らせる県土づくりを目指し、砂防関係事業の推進に努めてまいりたいと考えております。会員の皆様方より一層の御支援御協力をお願い致します。

終わりに当り、砂防関係に携わっておられる皆様方にとって、2000年が幸多き年となりますよう、祈念しております。

昨年は激動の1年でした。1年を振り返って、砂防室の10大ニュースを選んでみました。

1999年(平成11年) 砂防室 10大ニュース

1 砂防課から砂防室へ組織換え

2 富士山直轄砂防30周年記念事業に参加
記念式典・シンポジウム、御中道ぐるっと360°、富士山火山防災講習会

3 狩野川直轄砂防40周年記念事業に参加

4 上大沢ほか2件が、砂防等災害関連緊急事業に採択 総額13億3千8百万円

5 土砂災害防止功労者として函南町の畑自主防災会が全国大会で表彰

6 土砂災害の恐れのある災害弱者関連施設への防災説明会開催 ハザードマップの配布

7 局地レーダー雨量計完成

8 新基準による土砂災害危険箇所調査開始

9 「砂防フェスティバル'99しずおか」の開催
土砂災害に関する絵画・ポスター・作文の表彰

10 火山砂防フォーラムINフィリピンに砂防室が参加

平成11年度 砂防関係事業費 208億円

(12月補正まで)

砂防関係の予算は、9月議会では地域戦略プラン事業推進、中小建設業者の受注確保による雇用対策として生活環境整備事業、現年災害に対する緊急対策事業が、また12月議会では国の「経済新生対策」に伴い編成された第2次補正予算に呼応して増額補正がされました。

■県の砂防関係予算

(単位：百万円)

| 区 分 | ①当初予算 | 9月補正 | 12月補正 | 合 計 |
|----------|--------|-------|-------|--------|
| 行政費 | 5 | | | 5 |
| 国庫補助事業 | 11,098 | 1,627 | 2,994 | 15,719 |
| 県単独事業 | 2,742 | 342 | | 3,084 |
| 国直轄事業負担金 | 1,592 | 401 | | 1,993 |
| 計 | 15,437 | 2,370 | 2,994 | 20,801 |

平成12年度 国の砂防関係事業費 4,715億7,200万円

来年度の政府予算は今年度に引き続き「積極型」財政で、公共事業費は11年度と同額の9兆4,307億円(国費)となり、砂防関係予算には4,715億7,200万円(事業費)の内示がありました。また土砂災害が頻発している状況から、総合的な土砂災害対策として新規事業の創設等により「信頼感ある安全で安心して暮らせる国土づくり」を推進します。

■平成12年度国の砂防関係予算

(単位：百万円)

| 区 分 | 平成11年度 当初予算 | 平成12年度 内 示 額 | 対前年度比 |
|---------|----------------|-----------------|-------|
| 砂 防 | 318,010 | 322,825 | 1.02 |
| 地 す べ り | 44,860 | 45,982 | 1.03 |
| 急 傾 斜 | 99,289 | 102,765 | 1.04 |
| 合 計 | 462,159 | 471,572 | 1.02 |

※直轄事業+補助事業

新規事業は以下のとおりです。

- 砂防関係事業調査費補助制度 …… 砂防関係事業と関連する基礎的調査
- 土砂災害情報相互通報システム整備事業 …… 市町村において住民との災害情報交換を行なうための端末等の整備
- 特定緊急(砂防・地すべり対策)事業 …… 災害関連緊急事業と一体的に対策を実施し再度災害を防止する
- 災害関連急傾斜地崩壊対策特別事業(がけ特) …… 災害関連緊急事業と隣接する斜面の一体整備

富士山直轄砂防30周年記念事業

～富士山の昨日・今日・明日～

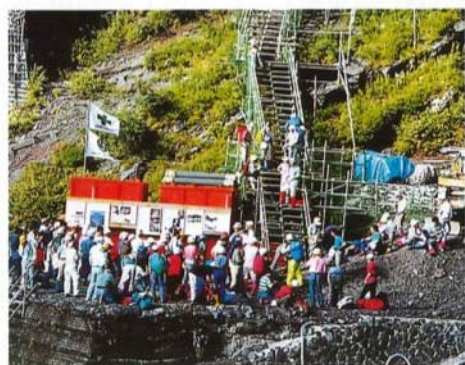
富士山の直轄砂防事業は、昭和42年に閣議了解を経て設置された「富士山大沢崩れ対策懇談会」の結論を契機に、昭和44年に大沢川扇状地での工事に着手してから平成11年4月で満30年を迎えました。

富士宮市・富士市・芝川町・静岡県・富士砂防工事事務所は5月に「富士山直轄砂防30周年記念事業実行委員会」を発足させ、「富士山の昨日、今日、明日—富士山を見つめ、学び、富士山を愛する人々と語る—」をテーマに、これまでの事業を振り返り、多方面から評価・意見をいただく各種行事を実施しています。

今回はこの中から9月11・12日の2日間にわたって実施された「富士山御中道ぐるっと360度」と、11月17日に富士宮市民文化会館大ホールにおいて開催された「記念式典・シンポジウム」について概要をお知らせします。

「富士山御中道ぐるっと360度」

「御中道」は、富士山の中腹を一周する富士講の修行道で、かつては富士山に3回以上登頂した者だけに許されるルートでした。しかし大沢崩れの崩壊の進行等により昭和52年より通行不能となっていました。今回、富士砂防工事事務所が実施する源頭部調査工事現場のルートを使えば一時的な通行は可能と判断し企画されました。



大沢崩れ源頭部調査工事現場にて

インストラクターとして医師で登山家の今井通子氏を招き、道中では1日目に森林教室・砂防教室・植生教室・御中道教室を、2日目には火山教室・雪崩教室が行われました。両日とも天候には恵まれ、途中リタイア者もいましたが事故もなく、一般公募による参加者112名を含む171名が約23kmの行程を完歩し、大沢崩れの現状や富士山の自然を目の当たりにしました。



宝永火山にて

「記念式典・シンポジウム」

式典では、実行委員長（渡辺 紀 富士宮市長）、建設省砂防部長、中部地方建設局長（門松 河川部長代読）による挨拶、来賓（大野 静岡県出納長）からの祝辞、富士砂防所長による事業経過報告がなされました。つづいて、昭和51年7月に大沢崩れを訪れた幸田 文さんの随筆から制作したハイビジョン映像「幸田 文『崩れ』富士山大沢崩れ」の初公開上映と、青木 玉さん（幸田文さんの長女）による特別講演「『崩れ』と様々なつながり」が行われ、1,200人収容の会場を埋めた聴衆は興味深く聴講していました。

シンポジウムは、池谷 浩 建設省砂防部長をコーディネーターに、今井通子さん、若林淳之さん、山村レイコさん、青木奈緒さん、水山高久さんをパネリストに、それぞれの専門分野から富士山の様々な実態と富士山への思いや今後の事業展開に関する活発な意見交換が行われました。

式典・シンポジウムの記録は報告書として冊子にとりまとめられるほか、映像『崩れ』と特別講演はVHSテープに収録されていますので、ぜひ御覧下さい。



青木 玉さん特別講演



シンポジウム



狩野川直轄砂防40周年記念式典

～語り継ごう狩野川台風～

狩野川台風の翌年昭和34年着手した狩野川直轄砂防事業の40年目を記念して、「狩野川直轄砂防40周年記念式典」が去る11月21日、田方郡天城湯ヶ島町の天城温泉会館天城劇場ホールにて開催されました。式典には、小中学生などの一般町民の方や消防団の方など約360名が参加されました。

式典は、来賓として建設省池谷砂防部長、静岡県岡野土木部長などの出席のもと、式典のテーマ“語り継ごう狩野川台風”として、3町（修善寺町、中伊豆町、天城湯ヶ島町）の被災体験者から台風当時の体験談、小中学生から狩野川台風災害についての作文の朗読がありました。そして、ゆとり研究所長の野口智子さんより“伊豆を遊ぼう！伊豆を活かそう！”と題した特別講演がありました。

また、今回の式典のテーマ“語り継ごう狩野川台風”として、式典開催までに約2万人を越える町民（3町の人口約3万4千人）の方が、狩野川台風について語り継がれたことも式典の中で報告されました。



野口智子さんによる特別講演



池谷砂防部長による挨拶



小中学生作文朗読

伊豆ワカガエル大作戦



イズノスケ

チェンジ伊豆2000!

富士山・狩野川直轄砂防のあゆみ

| 富士山 | | 狩野川 |
|-------------------|----------------------------|------------------------------|
| 富士山大沢崩れ対策委員会 設置 | 昭和32年(1957) 昭和33年(1958) | 狩野川台風災害 |
| | 昭和34年(1959) | 直轄砂防事業に着手 狩野川砂防工事事務所設置 |
| 静岡県が工事に着手（～昭和43年） | 昭和39年(1964) | 沼津工事事務所に統合 (狩野川砂防工事事務所廃止) |
| 直轄砂防事業に着手 | 昭和44年(1969) | |
| 富士砂防工事事務所 発足 | 昭和45年(1970) | |
| 南西野溪対策に着手 | 昭和58年(1983) | |
| | 昭和63年(1988) | 狩野川台風30周年記念行事 |
| 富士山直轄砂防20周年記念式典 | 平成2年(1990) | |
| 6月と11月に大規模土石流発生 | 平成9年(1997) | |
| 富士山直轄砂防30周年記念式典 | 平成11年(1999) | 狩野川直轄砂防40周年記念式典 |

市町村長等

砂防事業 県外視察の実施

全国治水砂防協会静岡県支部の重要行事の一つである「市町村長等砂防事業県外視察」を、平成11年8月25日～27日までの3日間の日程で開催いたしました。

本年度も、県内市町村長など総員36名の方にご参加をいただき、高知県の砂防事業、町おこし事業を視察しました。

初日の8月25日は、山陽新幹線新尾道駅に集合して、「しまなみ海道」を視察しました。

翌26日は、今治よりバスで高知に向かい、上改田川緊急砂防事業及び、香北町の地域おこし事業を視察しました。

3日目の27日は、高知市内の被災現場を視察し、帰静しました。

視察した砂防関係事業と地域おこし事業についての概要を紹介いたします。



上改田川緊急砂防事業 (高知県香美郡土佐山田町)



土石流が流下した上改田川、砂防ダムが急ピッチで施工されていました。

地域おこし事業 (高知県香美郡香北町)



アンパンマンの作者やなせたかしのふるさと香北町では活性化事業のアンパンマンミュージアム等の施設を見学しました。

北高見緊急急傾斜地崩壊対策事業 (高知県高知市北高見)



裏山が崩壊し人家を土砂が直撃して、1名の死者が出ました。

大山谷川緊急砂防事業 (高知県高知市孕西町)



土石流が発生しましたが、既設砂防ダムにより被害が最小限に食い止められました。

今回の視察は、被災現場を直に見ることができ、土砂災害の怖さを実感し、参加者から大変有意義な視察であったとの声をいただきました。

お忙しい中に参加していただきました皆様、また御案内いただいた高知県防災砂防課、県土木事務所、香美郡香北町役場の方々に誌上をお借りして心からお礼申し上げます。

砂防担当職員研修会の実施

全国治水砂防協会静岡県支部主催により、砂防担当職員研修会を、平成11年11月18日～19日の2日間、滋賀県で実施しました。参加者は、県内市町村砂防関係担当職員や県土木事務所砂防担当職員等42名でした。

18日は、土砂災害の発生状況や警戒避難体制の整備、砂防関係事業の法体系に至るまで、砂防室の職員を講師として、研修を行いました。参加された方々は、熱心に耳を傾けて下さり、砂防に対する関心も大きなものでした。

19日は、滋賀県砂防課・水口土木事務所、甲賀郡甲賀町役場の方々のご協力を得て、甲賀町の都市対策砂防事業「青野川砂防みずべ公園(鹿深教育キャンプ場)」を見学しました。青野川高間砂防ダムを中核にして、地域ふれあい活動等の



研修会状況



青野川砂防みずべ公園



実践の場として整備されており、地域のシンボル施設として、利用者に大変好評であるという説明を受けました。

午後からは、建設省近畿地方建設局琵琶湖工事事務所の方のご案内により、瀬田川の砂防や琵琶湖の治水と歴史等を展示してある「水のめぐみ館アクア琵琶」を見学し、無事に終えることができました。

滋賀県関係者のご協力のおかげで、2日間、大変有意義な研修会、現地視察を行うことができました。有り難うございました。

来年度も引き続き、実施を予定しておりますので、皆様のご参加をよろしく申し上げます。

全国治水砂防促進大会の開催



全国治水砂防促進大会が、平成11年11月30日、東京・平河町の砂防会館別館(シェンパッハ・サポー利根)において開催されました。

当日は、全国各地から1,000名を越す多数の会員が参集し、静岡県からもご多忙中にもかかわらず、市町村長の方々をはじめ、多数の役員会員の皆様にご出席をいただきました。

大会は、唐沢全国治水砂防協会長の挨拶にはじまり、中山建設大臣からの祝辞、会員代表者の三重県員弁郡藤原町長、広島県呉市長の意見発表がありました。最後に、砂防関係事業の促進について、「大会

アピール」を砂防協会の大久保理事長が行い、盛会のうちに終了しました。

午後より、大会へご参加いただいた皆様とともに、県選出国議員へ砂防事業の促進について要望活動を行いました。

ご参加いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。



平成11年度東海地区砂防協会支部長・砂防課長合同会議開催

東海地区全国治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が、11月9～10日に、建設省から蒲火山・土石流対策官、全国治水砂防協会から大久保理事長を迎え、三重県菟野町で開催されました。

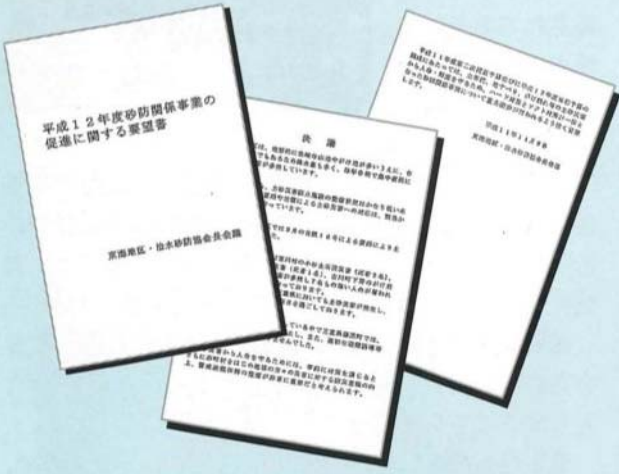
9日の会議では、まず建設省から平成12年度の概算要求の重点事項、土砂災害危険箇所が増加抑制、郵



政省と河川局の土砂災害防止に関する連携等の説明があり、協会大久保理事長からは11年度事業、協会ホームページの開設など、また各県からは今年度の協会の活動状況等が報告されました。

最後に、「平成12年度砂防関係事業の促進に関する要望」決議を行い、第1日目を終了しました。

翌10日には、朝明川水と緑の砂防事業、音無川砂防公園の視察が行われました。



「天竜市における わがまちの斜面整備構想 策定検討委員会」開催



第1回の委員会は平成11年10月14日に開催されました。午前中は急傾斜地崩壊防止工事が実施された川口地区や、急傾斜地崩壊危険箇所などを視察しました。午後は、事務局側から住民アンケートの結果報告や、今後天竜市で行うべきがけ対策についての意見交換を行いました。今後さらに2回の委員会を経て年度内に「天竜市における わがまちの斜面整備構想」を策定する予定です。

県砂防室では、がけ崩れ対策を進めるにあたり、安全確保は勿論のこと、環境に配慮したり、地域の歴史や文化にマッチした質の高い斜面对策を目指しております。今年度は天竜市において、斜面整備の方針を策定する委員会を設置しました。委員は、中村浩之東京農工大学教授、天竜市の自治会関係者から鈴木久夫氏、渥美恵市氏、杉原省悟氏、一色伸一氏、磯部久子氏、行政側から天竜市長、静岡県砂防統括監、天竜土木事務所長の9名の方々に依頼しました。





大沢沈砂地工

西暦2000年ミレニアム明けましておめでとうございます。

日本の象徴である富士山の西南麓に位置する富士宮市は、広大な土地、豊かな自然の中で文化と歴史が生まれ、表富士登山口として、また、富士山本宮浅間大社の門前町として栄えてきました。現在、人口は12万人を超え、静岡県東部の主要都市として着実な歩みを続けております。

さて、本市の砂防は富士山を抜きには語れません。富士山には「八百八沢」といわれるほど多くの沢があり、中でもひととき異形を放った大崩壊地が「大沢崩れ」であり、現在でも土砂流出は続いております。

普段は美しい姿を見せてくれる富士山ですが、雪解けや大雨時期には恐ろしい土砂災害を引き起こしてまいりました。近年では昭和47年の老人ホームを含む約1,500戸が被害を受けたのをはじめ、過去幾たびか災害に見舞われてきました。

そこで、「大沢崩れ」の対策について、静岡県が昭和32年に調査に着手したのが最初で、その後、昭和44年からは国の直轄砂防事業として、又昭和45年には建設省富士砂防工事事務所が開設され、以来30年、大沢川扇状地を初め様々な対策が講じられてまいりました。

平成9年には6月と11月に併せて40万㎡という過去最大級の土石流が発生しましたが、砂防施設に守られ土砂をくい止め、下流域においての災害を防止することが出来ました。大沢崩れ流域に住む私達にとってその効果は測り知れないものがあります。



潤井川流路工沿「大沢川スポーツ広場」

砂防事業の重大さを身をもって体験している富士宮市です。これからもどのような災害が発生するか判りません。今後も引き続き国の直轄事業として事業促進が図られますよう、関係各位のなご一層の御支援、御協力を切に願うものであります。

I N F O R M A T I O N

砂防ボランティア講習会の実施

11月5日、10日、16日に佐久間町、南伊豆町、下田市の自主防災会研修会にて土砂災害対策についての講習を実施しました。

各自主防災組織の会長、防災委員の方々に対し、砂防室職員及び土木事務所職員から、昨年及び今年の土砂災害の状況、土砂災害危険箇所の監視のポイントなどについて、OHPやビデオを使用し、説明し



砂防ボランティア講習会

ました。

これらの市町は、これまで土砂災害の被害を多数受けており、また県内に先駆けて防災連絡員（砂防ボランティア）を設置していることもあり、土砂災害に関する関心が高く、熱心に講習をうけていただき、また土砂災害についての情報公開の要求や森林保全の必要性を述べられるなど有意義な意見を聞くことができました。

'99 火山砂防フォーラムの開催 in フィリピン



「火山砂防フォーラム」が初めて海を渡り、フィリピンで開催されました。今回は10月19日～25日の日程で、全国から約100名が参加し、現地視察、防災セミナー、記念交流事業が行われました。本県からは砂防室、砂防ボランティア、地質調査会社から各1名の計3名が参加しました。

「火山砂防フォーラム」は雲仙普賢岳の噴火災害が起きた、平成3年から始まり今年で9回目を迎え、今回は平成3年6月に今世紀最大の火山噴火を起こしたピナツポ火山の麓にあるアンヘレス市（マニラ市の北西約90km）のクラーク特別経済地区内で開催され、フィリピン及び日本の自治体が一堂



ピナツポ火山火口

に会し、火山対策及び火山を生かしたまちづくりについての情報交換が行われました。

10月19日に成田空港で結団式を行い日本を出発し、翌20日には、ピナツポ火山周辺の被災地、被災住民の再定住地やメガダイクと呼ばれる大規模な防災施設（遊砂地）などを視察しました。ピナツポ火山は平成3年の噴火



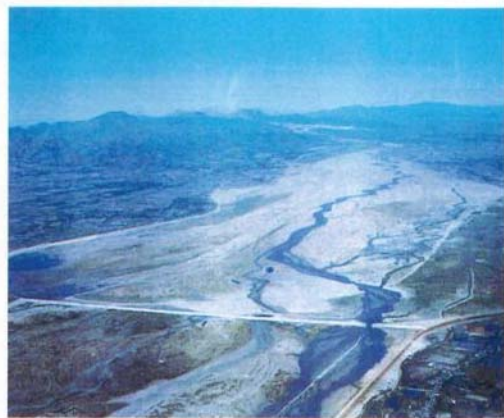
泥流で埋没したバコロール市街地（土砂は約6m堆積）



マダブダブ再定住地の小学校を訪問

では山頂付近が吹き飛び、直径約2kmのカルデラが形成され、標高は218mも低くなり（1745m → 1527m）、山麓には多量の火山噴出物が堆積し、雨季には泥流となって下流域に土砂災害を発生させています。火山噴火災害規模は雲仙普賢岳の約50倍、死者700人以上、建物被害10万棟以上、避難住民247万人以上との説明が

ありました。また、視察した山麓周辺の各河川には大量の土砂が堆積しており、その範囲はピナツポ火山を中心に半径50kmの範囲にまで及んでおり、メガダイクと呼ばれる大規模遊砂地は総面積45km²、貯砂能力6億m³、幅約3.5kmで対岸が震んで



メガダイク全景（堤防総延長約24km、貯砂能力6億m³、最大幅約3.5km）

見える程の巨大な構造物でした。また、下流のバコロール市街は土砂で埋没し、見学したバコロール教会は6.6mもの土砂が堆積しており、今世紀最大といわれる火山災害の大きさが確認できました。

21日には防災セミナーがアンヘレス市のホリデーインにおいて開催され、日本側からは池谷砂防部長が、フィリピン側からは公共事業道路省のエンカルナシオン次官が挨拶した後、フィリピン側からピナツボ火山の噴火災害と対策・復興とマヨン火山について5人の発表と日本側からは3人の発表を行い、全体を通しての質疑の後、セミナーを終了しました。

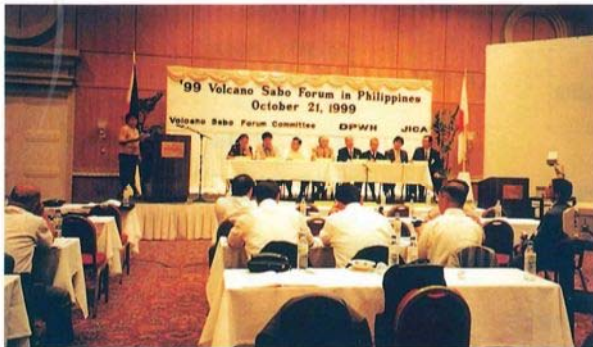
22日はマニラ市南約60kmにあるタール火山周辺の視察、23日には国内線を利用してマニラ市から南東約350kmに位置するレガスピ市に移動して、マヨン火山周辺の被災現場、地熱発電所等を見学しました。マヨン火山は標高2,462mの成層火山で富士山を小振りにした女性的で美しい山ですが、



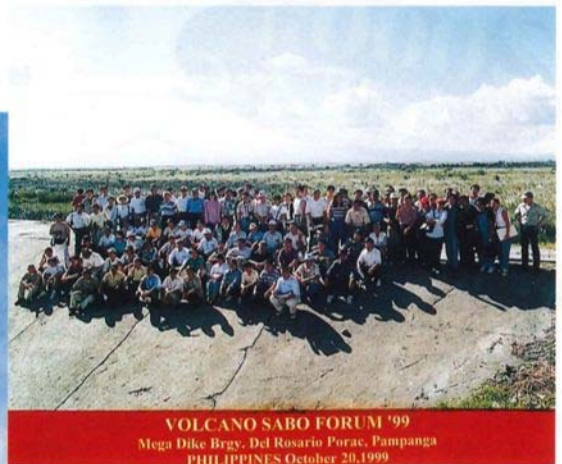
バシグ川の土砂堆積状況、橋は流失し通行車両は河床を走行している

約10年毎に噴火を繰り返し、到着した日も山頂から白煙を吹き上げており、周辺6km以内は立入り禁止の措置がとられていました。

今回のフォーラムは火山災害という共通の課題を持つ、フィリピンと日本の火山対策についての新たな国際交流が実現した意義深い開催であるとともに、フォーラムに参加して、フィリピンも日本と同じく火山と共生している国であることを実感するとともに、火山に起因する土砂災害の大きさを改めて痛感しました。



防災セミナー



メガダイクにて 参加者記念撮影



マヨン火山 (平成11年7月の噴火)

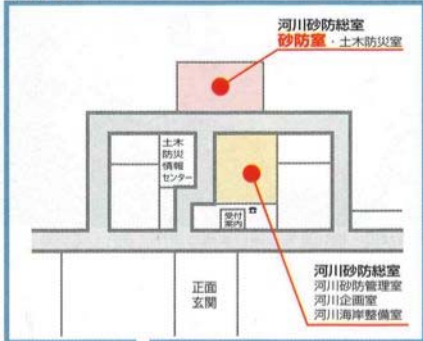


お知らせ

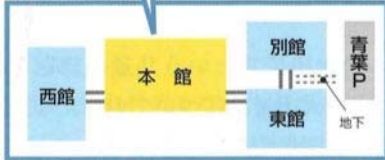
砂防室の移転

平成11年11月15日から、河川砂防総室砂防室が西館2階から本館2階に移転しました。これまで同様、県庁にお越しの折はお気軽にお立ち寄り下さい。

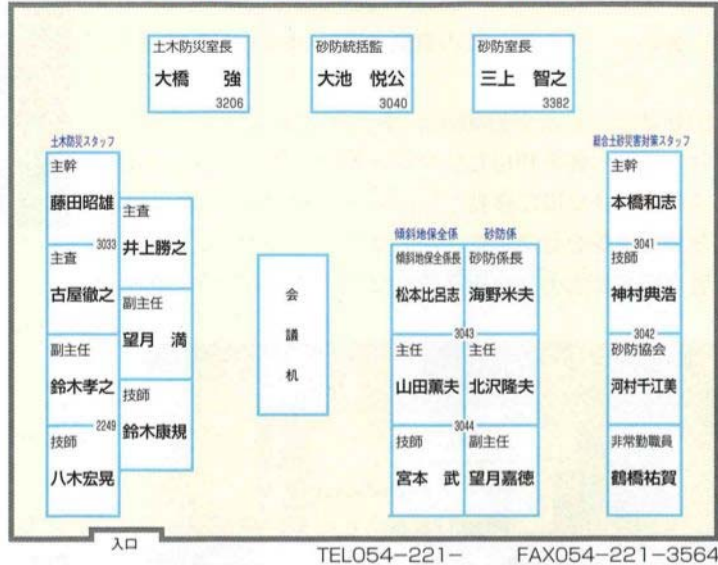
【本館2階】



【県庁舎配置図】



砂防室・土木防災室職員配置図



2000年を迎えて

砂防室 砂防係
望月嘉徳

巷では新年を迎えるにあたって、ミレニアムだと騒がしく、躍進と回復の特別な1年への希望的予感に期待感が漂っています。また、話題となった2000年問題(Y2K)では文字どおり不測の事態への対策が施され、生活に深く浸透したコンピュータの誤作動は日常生活への致命的な影響が懸念されました。私達の生活に密着した次元で発生し被害を被る可能性を含んでいる点では、Y2Kは砂防室の取り組む土砂災害対策とも共通点があります。無対策であれば日常生活の根幹を揺るがす危険性をもった事柄であるにもかかわらず、大半の方は「自分の身には直接被害はない」と思い込みがちなこと極めて類似しています。一般に土砂災害は発生予測・特定が難しいとされており、突発的で瞬時にして私達の生命・財産を脅かし、日常生活に大きな損害を与えるのが特徴です。Y2Kと土砂災害を直接比較することは少々乱暴ですが、生活の基盤を揺るがす事象に対して、万全な備えを期すことの重要性は言うまでもありません。そのためには、砂防設備の充実はもとより、正しい知識の普及・認識や避難体制の強化などともに自ら身の安全を守るための日頃からの住民の準備が大いに必要です。

近年の局地的豪雨の発生の実態から、悲惨な土砂災害は決して他人事ではありません。

「あなたの家の裏山は安全ですか？」

いづれにしても西暦2000年が土砂災害のない穏やかな1年となりますように。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、本県では幸いにも大規模な人的災害に見舞われることはありませんでした。しかしながら、全国各地では土砂災害が相次ぎ、特に、昨年6月末の梅雨前線豪雨による広島県の土砂災害では、尊い人命や財産が奪われるという悲惨な出来事となりました。

新しい時代の幕開けとなる2000年を迎えましたが、今年が皆様にとって良い年になるようお祈り申し上げます。

砂防だよりも充実した誌面づくりをめざしてまいりますので、本年も砂防だよりをご愛読いただきますようお願いいたします。

表紙写真：初冬（清水・吉原）富士宮市 杉浦正幸さん撮影

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しております！皆さんの御協力お願い申し上げます。

砂防だより

第128号 発行日：平成12年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡市追手町9番6号

静岡県土木部河川砂防総室砂防室内

TEL (054) 221-3042 FAX (054) 221-3564

R80

古紙配合率80%再生紙を使用しています